

基本構想

目的・「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人」づくり、「人の輪」づくり
・「行動」する市民、「協働」する市民として共に育つ(共育)

方法論
・知識、経験問題意識を持ち寄る
・立場や分野を超えて「本音の議論」
・「大きな展望（本音の納得）」の共有
・「大きな流れ（本音の協働）をつくる」

資料

071001 版

第2期ビジョン

なごや環境大学が目指す社会像
(仮)「多様な協働の学びあいを通じて市民と社会がつくる、持続可能な環境首都なごや」

なごや環境大学は
○何をめざすのか
○どうつくり上げていくのか
○どう支えていくのか

2050年のなごやの環境都市像を今後具体化する

【活動目標】

1. 名古屋の解決(達成)すべき環境課題に社会全体として挑戦する
○名古屋特有の地域課題
○伊勢湾流域圏としての広域的な環境問題や連携課題
○持続可能な地球社会構築に向けて名古屋が果たすべき課題

2. なごや環境大学の社会的機能を強化する
○共育講座企画団体相互の協働をコーディネート
○共育講座企画団体へのサポート機能強化
○さまざまな主体・世代・人々の環境活動の取組みを支援
○協働型社会の姿・ありようを社会に見せる

3. なごや環境大学の運営体制の強化
○実行委員会体制・財政基盤・運営のしくみなどの確立
○評価システムの確立

【新たな視点からの事業展開】

【テーマとして切り口】
○生物多様性の保全・創造
○地球温暖化への取り組み(低炭素社会の実現)
○資源循環型社会の実現(3Rの推進)
○持続可能な開発のための教育(ESD)の展開

【活動形態・機能としての切り口】
○市民・企業・行政の協働型事業の提案・実施へ
○大学を巻き込んだ学びの深化
○持続可能性を模索する社会実験の展開
○企業・地域・行政の課題解決型の事業展開……

【経営としての切り口】
○外部資金の積極的導入をめざす(助成申請など)
○行政・市民・企業・大学の持ち寄りの定量化
○企業との連携強化
○広報PR活動、受講生・市民への戦略的広報
○周辺の自治体との連携・協働へ

【当面の事業構想】

○生物多様性を体感できるイベント・講座
○COP10 プレ・イベント
○交通社会実験
○資源循環型社会の実現(3Rの推進)
○中部ESD拠点としての多様なESD講座
○特定テーマに基づく講座公募

○市民提案型の環境(まちづくり)政策の立案
○大学の公開講座との連携や共同研究
○学区単位でのご近所の底力事業の推進
○企業と市民やNPOとの連携事業の企画運営
○関連公的機関との連携

○受講生のデータベース化と活用(交流・サポーター)
○中小企業の優れた環境技術の紹介
○周辺自治体との協議会の立ち上げ、連携
○社会実験に対する外部資金の獲得
○「愛知環境賞」への応募などを通じた広報

【アクション・プラン】

1. 名古屋の解決(達成)すべき環境課題に社会全体として挑戦する

1-1 生物多様性の意味・重要性を幅広い市民に届け、生物多様性を市民の合言葉にしていくためのイベントや講座、具体的な活動を展開する。

- ・生物多様性の言葉を共有化していくためのイベント型公開講座の開催(COP10 プレイメントなど)
- ・市民参加での多様性マップの作成
- ・東山新池での池干しと生物調査の実施、結果のまとめと市民への広報 など

1-2 地球温暖化防止のために市民全体での様々な取り組みや社会実験を展開し、CO₂排出量1990年比マイナス10%の確実な達成と、次の新たな目標に向けて、新しい社会の姿を示す。

- ・3:7から4:6に向けた交通社会実験、交通エコポイントへの参加
- ・エコ事業所の活動紹介型講座の企画実施
- ・「エコキッズ」「スクールISO」「エコファミリー認定」などの取り組みとの連携を強化する。

1-3 中部ESD拠点として、多様なESD関連の講座を展開し、ESDの考え方の普及を目指す

- ・中部ESD拠点認定を記念したESD関連講座を幅広い市民活動団体から公募し、ESD月間などとして開催
- ・名古屋版ESDハンドブックの作成

1-4 緩やかなテーマを特定した講座を公募し、名古屋が抱える緊急の具体的な環境課題の解決を推進する。

- ・半期ごとに実行委員会で一定のテーマを設定した上で、他行政機関なども含めて講座の公募・実施
- ・マスメディアや各種媒体との連携による環境キャンペーン型の取り組み
- ・頑張っている市民リーダーの応援、環境学習に活用できる場所や施設の掘り起こしなどを進める。

2. なごや環境大学の社会的機能を強化する

2-1 市民提案型の環境(まちづくり)政策の立案

- ・環境まちづくりに関する市民提案とそれに基づく講座(実地調査や具体化WSなど)実施
- ・(財)名古屋都市センターとの連携により、環境まちづくりに関する政策立案型の講座実施
- ・都市緑化、省エネルギー、都市内農地保全など、環境まちづくりに関わるテーマでの講座を企画実施し成果を広く市民に公表・還元する。

2-2 大学の公開講座との連携や共同研究

- ・大学が実施している各種公開講座について、なごや環境大学連携講座としての働きかけを推進する。
- ・科学研究費などにおいて、市民との協働型の社会実験を含む研究課題について、研究パートナーとして参画することを検討する。

2-3 学区単位でのご近所の底力事業の推進

- ・防災や安全、子育て、資源循環など学区が抱えている課題に対応した、学区版共育講座を企画実施。実施にあたり、区政協力委員や保健衛生委員、地域女性会などと連携する。
- ・こどもたちの提案や意見を地域で反映していくプロセスを支援する。
- ・講座の成果を広く地域住民に公表し、新たな提案や行動へとつなげる。

2-4 企業と市民・NPOとの連携事業の企画運営

- ・環境NPOとの連携を希望する企業に対して、出会いの場や機会づくりを行う。
- ・企業と環境NPOとの協働型の講座の企画づくりを支援する。

2-5 関連する公的な機関との連携を強化する。

- ・消費生活センターと連携し、受講生を環境配慮型商品モニターやエコクッキング講師として紹介
- ・名古屋市科学館と連携し、実験型講座の企画・共催、友の会と環境大学サポーター登録等を進める。

3. なごや環境大学の運営体制の強化

3-1 受講生をデータベース化し、受講生相互の交流や、なごや環境大学の企画運営のサポーターとして積極的な参画を進める。

- ・受講生に対する講座アンケートの内容を強化し、事務局による受講生の評価の把握に努める。
- ・サポーター制度を立ち上げ、講座受講生への参画呼びかけ、サポーターによる共育講座の応援推進
- ・ステップアップが図れる講座の戦略的な宣伝や紹介
- ・学園祭や環境大学フェスティバルなど、受講生による交流の場の充実

3-2 中小企業の優れた環境技術を広く市民に紹介できる場や機会を提供し、なごや環境大学の運営に対する企業の参画を推進する。

- ・中小企業の環境技術を紹介できるイベント型講座(展示)の企画実施、市民との協働連携の推進
- ・受講生を商品モニターとして紹介
- ・中小企業と環境意識の高い市民との意見交換型講座の企画

3-3 周辺自治体と、持続可能な都市づくりに向けた連携のしくみをつくる。

- ・環境自治体として意欲的な取り組みを進めている、伊勢湾流域圏内の市町村との連携を図る。
- ・〇〇環境大学などの市民向け講座を実施している自治体との間で協力関係を構築。

3-4 社会実験に対する外部資金の獲得

- ・地球環境基金や万博基金など外部の各種助成制度に積極的に応募し、課題解決に向けた社会実験を推進。

3-5 「愛知環境賞」への応募

- ・これまでのなごや環境大学の取り組み成果を広くアピールするため、愛知環境賞(10/26締切)や国連グローバル500賞など外部の表彰制度に積極的に応募する。また、講座提供団体の応募を支援する。